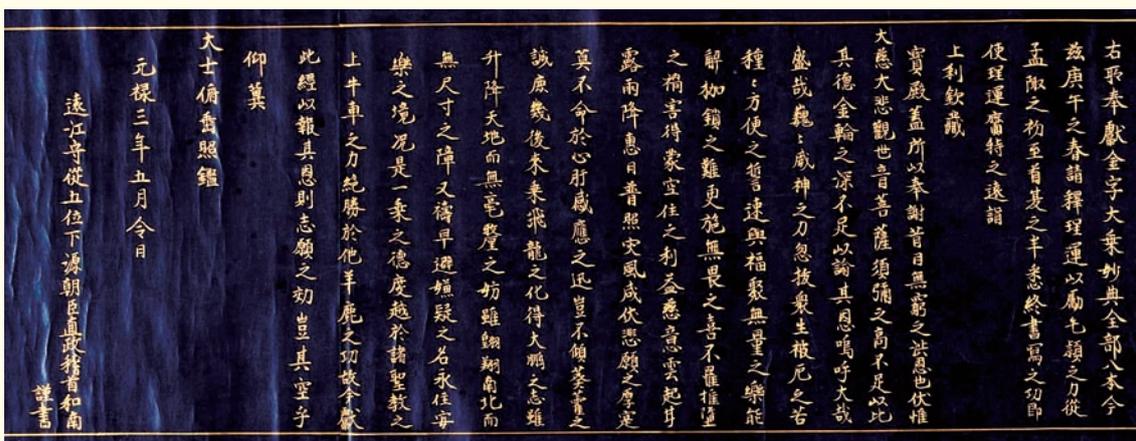


目次／南部直政奉納紺紙金泥法華経 表紙／活動レポート「本県博物館の現況」 p.2-3 / 展覧会案内「ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子」 p.4-5 / 事業報告「いわての光る生きものたち」 p.6-7 / インフォメーション p.8

企画展 八戸立藩三百五十年記念

ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子

～二代藩主南部直政と生母靈松院～



南部直政奉納紺紙金泥法華経 (総本山豊山長谷寺蔵)

紺色に染めた楮紙に金泥で僧理運が書写して、巻末に直政自らが願文を書き、真言宗豊山派の総本山長谷寺へ元禄三年に奉納したものです。蒔絵漆箱に収納されています。

観音さまの力によって風雨が順調で五穀が豊穰に稔り、ほんの小さな災いもなくなって、皆に幸福が満ちることを願っています。大変用語が難しく教養の高さが窺えます。

■活動レポート

本県博物館の現況

館長 なかやま さとし 中山 敏

1 はじめに

東日本大震災の発生から3年を経過しました。津波による県内の被災文化財や自然史標本等は50万点以上にのぼると推定されています。当館には、6市町村16機関が所管する被災資料が搬入されました。しかも、これまで世界的にも例のない海水やヘドロによる被害のため、文化庁をはじめ全国の関係機関の支援を頂き、試行錯誤の中で除泥・脱塩処理をして安定化処理を行っています。

また、県内博物館の支援体制は脆弱で博物館の連携強化が課題として浮き彫りになりました。このため、被災地域の博物館の状況把握を中心に、一昨年5月の連休から1年半近くかけて県内の登録博物館、博物館相当施設、博物館類似施設を問わず訪ねました。一般公衆が観覧できる施設は、埋蔵文化財センター等を含めおよそ124館に達します。

2 種類別博物館数と課題

訪れた県内124館の施設を岩手県博物館等連絡協議会による7つの種類別(総合、歴史・民俗、美術、文学・記念館、産業・工芸、自然・科学、動物園)に考察しました。(表1)

総合博物館は当館をはじめ、本県初の登録博物館である陸前高田市立博物館など8館で全体の6.5%と少ないですが、全国の7.5%と余り変わりません。歴史民俗資料館は55館と最も多いのですが、全国と比較して決して多い割合ではありません。美術館は9館で、その割合は全国の半分以下です。文学・記念館は31館で全体の25.0%と4分の1を占めます。

種類別の項目が文部科学省社会教育調査の項目と異なるため、全国と一概に比較できませんが、自然・科学館の割合が全国に比較して低いことが理解されます。本県にはオルドビス紀(約4.5億年前)から現世までの地質情報が豊富に存

在します。また、奥羽山脈、北上盆地、北上高地、三陸海岸などの多様な地形を持ち、大地震、活断層、火山活動、津波など地質現象は今も続いています。そして国際リニアコライダー研究施設の誘致が行われている今日、県立の自然史系科学博物館の設置が課題としてあげられます。

県内124の博物館等施設は、それぞれが立地する地域の特色や地域にゆかりのある人物を紹介する展示を行っています。特に日本でも珍しいユニークな博物館として、久慈市の「久慈琥珀博物館」や奥州市の「牛の博物館」は、本県の特色を示す博物館です。また、被災地の釜石市は「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産登録を目指している橋野高炉跡を有し、日本における近代製鉄発祥の地です。当市に立地する「鉄の歴史館」には関係資料が展示されており、是非とも訪れて欲しい施設です。

	総合	歴史民俗	美術	文学記念	産業工芸	自然科学	動物園	植物園	水族館	動植物	野外
岩手 %	8 6.5	55 44.4	9 7.3	31 25.0	12 9.7	8 6.5	1 0.8	-	-	-	-
全国 %	431 7.5	3,317 57.7	1,087 18.9	-	-	472 8.2	92 1.6	123 2.1	83 1.4	24 0.4	118 2.1

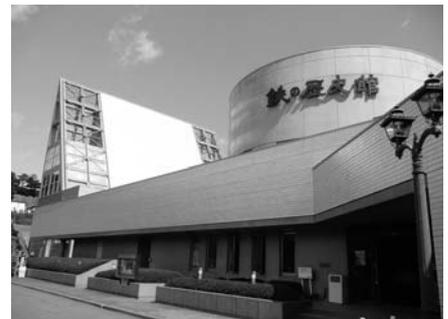
表1 種類別博物館数

※①全国は平成25年度全国博物館長会議の文部科学省行政説明による
②久慈地下水族科学館・岩手県立水産科学館は自然・科学館に分類

	総合	歴史民俗	美術	文学記念	産業工芸	自然科学	動物園	合計
盛岡 %	2 8.3	10 41.7	3 2.5	7 29.2	0 0	1 4.2	1 4.2	24 19.4
県北 %	0 0	13 59.1	2 9.1	2 9.1	3 13.6	2 9.1	0 0	22 17.7
沿岸 %	2 12.5	6 37.5	0 0	3 18.8	2 12.5	3 18.8	0 0	16 12.9
県南 %	1 3.3	12 40.0	1 3.3	10 33.3	4 13.3	2 6.7	0 0	30 24.2
県央 %	3 9.4	14 43.8	3 9.4	9 28.1	3 9.4	0 0	0 0	32 25.8
合計 %	8 6.5	55 44.4	9 7.3	31 25.0	12 9.7	8 6.5	1 0.8	124 100.0

表2 地域別博物館数

※①分類別の割合は地区の中での割合、合計の割合は県全体での割合
②少数点第2位を四捨五入



鉄の歴史館

3 地域別博物館数と特色

次に、県内124館の施設を岩手県博物館等連絡協議会による5つの地域別に考察しました。(表2)

①盛岡地区（盛岡市、滝沢市、矢巾町、紫波町、雫石町）には24館が位置します。盛岡地区の人口が432,943人であることから1館当たりの人口は18,039人で、立地の割合は県全体の中で決して多くはありません。この地区には、水族館を除く多種多様な博物館が存在します。また、県都盛岡市には県内市町村で最も多い17館が位置し、市中心部と盛南地域に集中しています。

②県北地区（久慈市、二戸市、八幡平市、洋野町、一戸町、軽米町、葛巻町、岩手町、野田村、普代村、九戸村）には22館が位置します。立地率は17.7%と低いのですが、県北地区の人口が166,944人ですので1館当たりの人口は7,588人と、人口比から考察すると盛岡地区の半分以下で県全体の中でも恵まれた地域です。当地区に位置する日本初の地下水族科学館「もぐらんぴあ」は、東日本大震災津波で壊滅的な打撃を受け、久慈駅前で「もぐらんぴあ・まちなか水族館」として営業を再開しました。平成26年度には元の所在地に再建する予定となっています。一戸町の御所野縄文博物館は、世界遺産登録に向けて積極的に発信しております。



御所野縄文博物館

③沿岸地区（宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市、岩泉町、山田町、大槌町、住田町、田野畑村）には16館が位

置し、県内で最も少ない地域です。しかし、沿岸地区の人口が198,624人であることから1館当たりの人口は12,414人で、人口比では盛岡地区を上回っております。この地区は東日本大震災による津波被災地域で、釜石市戦災資料館と陸前高田市海と貝のミュージアムの2館は壊滅的な被害を受け廃館、旧釜石鉱山事務所と山田町立鯨と海の科学館が休館となっています。鯨と海の科学館は平成26年度再開を目標としています。戦災資料館の救出された資料は郷土資料館に展示・保管され統合されます。本県初の登録博物館である陸前高田市立博物館は海と貝のミュージアムと統合する方針が示されていますが、再建の目処が立っておりません。現在、山間部の旧生出小学校を利用して文化財等レスキュー作業を展開しながら教育普及活動等を行っているものの、展示公開ができない状況にあり、全国の博物館関係者から再建計画の立案が待たれております。



陸前高田市立博物館

④県南地区（奥州市、一関市、金ヶ崎町、平泉町）には30館が位置します。県南地区の人口が269,254人であることから1館当たりの人口は8,975人です。この地区の博物館は、先人を顕彰する個人の資料館と世界遺産である平泉関連施設に特色があります。しかし、県全体の中で美術館が少ない地域で美術分野の充実が課題としてあげられます。

特色ある施設としては、緯度観測所があった奥州市の「奥州宇宙遊学館」、平泉文化の魅力を伝える「平泉文化遺産セ

ンター」があげられます。

⑤県央地区（花巻市、遠野市、北上市、西和賀町）には32館が位置し、県内博物館の25.8%を占めます。県央地区の人口が227,303人であることから1館当たりの人口は7,103人です。このように、博物館数、立地割合、人口比、種別バランスと、最も充実した地区です。県央地区の特色は、「宮沢賢治の故郷」花巻市と「民話の里」遠野市が含まれるため観光資源との関連が深い施設が多いことです。

また、南部杜氏のふるさとでもあり酒造関係資料を展示する施設、北上平野の穀倉地帯に位置し日本の食糧基地である岩手の農業を学ぶことができる「岩手県立農業ふれあい公園農業科学博物館」等が特色ある施設です。

4 おわりに

本県に位置する各博物館・資料館は、それぞれの地域に根ざし、地域の特色を明らかにする展示活動を展開し、地域住民に伝える教育普及活動に取り組んでいます。博物館が過去の資料を収集・保管・調査研究し展示しているのは、現在を如何に生きるか、そして未来への架け橋となることを目指しているからです。

東日本大震災に遭遇した今こそ、平泉が世界遺産に登録された今こそ、多くの県民が地域に位置する博物館や県立博物館を訪れ、地元の地域や岩手を探究して欲しいと思います。

この度、「知的探究の旅～岩手の博物館ガイドブック～」を岩手県博物館等連絡協議会監修で発刊しました。ガイドブックの売上金の一部は、東日本大震災津波によって壊滅的な被害を受け、再建の目処が立っていない陸前高田市立博物館再建費用に寄付されますので、ご協力頂ければ幸いです。

■企画展 八戸立藩三百五十年記念

ふるさとは岩手 八戸藩の礎となった母と子 ~二代藩主南部直政と生母靈松院~

会期：平成26年6月28日（土）～8月17日（日） 会場：特別展示室

岩手県立博物館で八戸藩の展覧会をするの？と思われる方が多いと思います。その理由を説明しながら、展覧会の内容を紹介します。

1 八戸藩の領地（藩域）

八戸藩の領地は、青森県旧三戸郡域と岩手県旧九戸郡（現洋野・軽米・九戸・葛巻・久慈）と飛び地の紫波郡紫波町志和地域からなります。八戸藩域の4分の3が岩手県内になります。



八戸藩の領域

2 八戸藩の成立

今から350年前の寛文4年（1664）に盛岡藩主南部重直の病死後、幕府の裁定によって二人の弟七戸重政と中里数馬に8万石と2万石が与えられ、盛岡藩と八戸藩が成立します。兄重直の旧領相続ではなく、幕府への父利直の貢献から新規に二藩を設けたので、八戸藩は盛岡藩の支藩ではないわけです。

中里数馬こと初代八戸藩主南部直房の父は利直、母は中里嘉兵衛正吉の娘で側室の仙寿院です。岩泉町中里の小領主の娘でした。数馬はもりおか歴史文化館のあたりにあった家老屋敷で生まれまし

た。幼名は辰丸君。成人してからは数馬（直好）と名乗っていました。200石の扶持と、150坪ほどの屋敷地を与えられただけで、家老勤めの兄重政こと南部重信に比べ軽い扱いでした。

3 八戸藩主家の起源

数馬は、出羽の小野寺氏の旧臣中野右馬之助の姉と結婚する子どもに恵れませんでした。その後、岩手町川口の館主川口源之丞正家の娘孝と再婚します。二人の間に寛文元年（1661）に二代藩主となる南部直政（幼名武太夫）が生まれます。川口正家の妻は、志和の朝倉氏（高水寺斯波氏の家臣）の娘で、夫の死後は耕雲院と名乗っています。この縁で、八戸藩は分地の際に志和を希望したと考えられます。八戸藩主家のルーツは岩泉町、岩手町、紫波町ということになります。

4 盛岡と八戸

中里数馬と孝が居住し、長男武太夫直政と次男運吉直常が生まれた場所は、盛岡中央郵便局向かいの和菓子屋さんの奥にあたります。数馬は、現在の岩手高校にあった水口坊の虚空蔵菩薩に祈願して直政を授かり、次いで米内の虚空蔵薬師（現在の浅岸の薬師神社）に祈願した甲斐あつて八戸藩主になったのだと『八戸はちのへ祠ほら佐嘉志』にあります。水口坊から八戸へ移して信仰し続けた虚空蔵菩薩は、八戸市南郷区島守の高松寺でお守りしている像だと推察できます。展示しますので盛岡へ350年ぶりに帰ってきます。

直政は、重信の後継行信の娘志久（妙雲院）を正室に迎え、重信の子通信を養子にしました。仙寿院の姪は行信の側室であり、八戸南部家と盛岡南部家は何重にも縁を結んでいました。

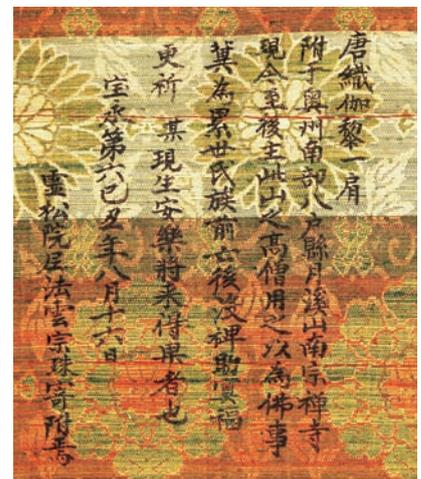
5 八戸城（三八城（みやぎ）公園）

根城南部氏を遠野に移した利直は、現在の八戸市役所や三八城公園のところに邸宅を造営し、根城や新井田から商人を集住させて街並みを整備しました。新藩成立後、この邸宅が藩主の住居や役所として転用され、江戸後期に新御殿ができるまでずっと使用されました。直房（数馬）の家族は寛文5年（1665）8月7日から、この場所で暮らし始めます。

6 夫直房の死と靈松院の役割

八戸に移ったのは直房の母仙寿院と妻の孝（靈松院）と5歳の直政と3歳の直常と盛岡藩から分けてもらった21人の藩士でした。寛文9年（1669）には富が生まれます。前年八戸に帰って来た直房は急死しますので、富は父の顔を知らずに育ちます。8歳の直政に相続が認められ新藩主となり、母子の江戸での生活が始まります。

実質5年ほどで初代藩主である夫が亡くなってからは、靈松院は子供を養育しながら、年少の藩主を後見し、江戸や国元の家老たちと相談して、八戸藩の様々な体制を整え、義母仙寿院が延宝元年（1673）に亡くなってからは、実質的に藩政の舵取りをしています。



靈松院奉納二十五条袈裟願文（南宗寺蔵）

関連事業

- 特別講演会
8月2日(土) 10:30～12:00 当日受付 講堂 聴講無料
「柳沢吉保と南部直政」
講師：福留真紀氏（長崎大学准教授）
- 展示解説会 各回14:30～15:30 特別展示室 要入館料
7月6日(日)、7月19日(土)、8月3日(日)

- 県博日曜講座 各回13:30～15:00 当日受付 講堂 聴講無料
7月13日(日) 「二人の藩主・南部重信と南部直政」
講師：兼平賢治氏（東北大学大学院助教）
7月27日(日) 「八戸城下の形成」
講師：藤田俊雄氏（八戸市立図書館長兼市史編纂室長）
8月10日(日) 「霊松院（川口孝）と南部直政」
講師：佐々木勝宏（当館学芸員）
- 伝統芸能鑑賞会 川口神楽・きつね踊り（川口神楽・きつね踊り保存会）
7月12日(土) ①11:00～11:30 ②13:30～14:30 講堂 鑑賞無料

7 南部直政

直政は二代藩主であるとともに、貞享4年（1687）に將軍徳川綱吉の側近の御詰衆、その後御側衆を経て、元禄元年（1688）には柳沢吉保と同時に、御側御用人になります。儒教を学び、大学頭林信篤と親しく、仏教も篤く信仰していましたから將軍護持僧隆光とも昵懇の間柄でした。

直政の存在を綱吉に伝えたのは、おそらく大学頭林信篤だったでしょう。湯島の聖堂に漆箱や幡などを直政は献納していましたし、病床から信篤に見舞いに来てほしくて、窓辺の花海棠が見頃ですと訪問を促す漢詩を贈っています。腕の腫物がひどくなり、三か月ほどで、御側御用人を辞職します。

柳沢吉保は『源公実録』のなかで、家老の藪田重守に南部遠江守（直政のこと）は利発過ぎて將軍の意に適わなくなると言っています。それでも綱吉を敬愛する彼は、將軍の儒教の講義拝聴のとりなしを藪田經由で吉保に頼んだりしています。



藪田重守筆『源公実録』
（大和郡山市教育委員会蔵）

直政は漢詩文に優れ、自作の漢詩文を戸田順折に編纂させ『新編文林全集』を遺しました。教養の高さと気まじめな性格が読み取れます。その学識で、朝鮮通信使が献上した屏風を皆が開けられず困っていた時に、謎解きの漢詩を読んで開けて見せるなど、利発で親孝行の殿様でした。母の健康長寿や藩士や領民の幸福などを願って書写奉納された紺紙金泥

法華経が八戸と奈良県の長谷寺に遺されています。

『附録伝記』によると、將軍綱吉への出仕が早朝から深夜に及び、神経をすり減らして仕えていた様子がわかります。家臣に厳しくあたり、処罰も厳しめですが、そんな時も霊松院のとりなしで、事なきを得たことが何度もありました。五代將軍綱吉と生母桂昌院と、直政と霊松院とは、学問好きで、仏教への信仰心も篤く、母親孝行など、よく似た関係です。

生類憐みの令は、綱吉の護持僧隆光の提案だという俗説がありますが、この隆光に年に二度、江戸の八戸藩邸で大般若の祈禱をしてもらい、詩歌の宴の際は必ず参加し合う仲でした。隆光は直政の死後、霊松院と妙雲院の見舞いに数度、出向いています。



隆光像（唐招提寺西方院蔵）

真言宗豊山派の能化（^{のうけ}管長）で長谷寺のトップだった卓玄とも親交があり、八戸の祈禱寺豊山寺のご本尊だったと考えられる福善寺の長谷式十一面観音像は卓玄に開眼供養してもらっています。弟の追善供養に造立された紫波町沢口観音堂の准胝観音像の胎内から発見された由来記は臨濟宗のトップで僧録司でもあった南禅寺前任職の剛室崇寛に書いてもらっています。外様で小藩の大名でありながら、当代ぎつての人物たちと交流していたことがわかります。



長谷式十一面観音像（福善寺蔵）

8 家族を思う気持ちを皆に

霊松院の実家川口家は兄の若死によって改易となります。彼女は甥を引き取り、乳母や傅役らと協力して三人の我が子も育て上げます。不幸にして息子二人に先立たれますが、それだけに神仏への信仰心篤く、菩提寺南宗寺の整備をはじめ、領内の社寺の再興にも尽力しました。法要の形式や執行の職務分担なども決め、法要用の造花を作成した藩士の家族へのお礼も欠かしませんでした。法具などは江戸で用意して国元に送りました。先祖ばかりか、子孫の供養まで願う人でした。

霊松院の死後、娘の富（操松院）は莫大な遺産を相続します。霊松院は藩から支給される賄料を使いきらずに、領民に融通していました。苦勞の連続の人生だっただけに家族を思う思いを皆に持つ、優しく気配りのある人物像が八戸藩『目付所日記』からも伝わってきます。

（主任専門学芸員 佐々木勝宏）

■事業報告 第64回企画展

いわての光る生きものたち ～大震災からの復興の光～

会期：平成25年6月29日（土）～8月18日（日） 会場：特別展示室

第64回企画展「いわての光る生きものたち～大震災からの復興の光～」は、当館企画展としては過去最高の1万5千人を超える入場者にお出でいただきました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。以下に、本企画展及び関連事業について、ご報告いたします。

★大変だった生体展示

東日本大震災後、震災を体験した日本人に、光る生きもので心に訴えるものがないかを検討していました。その結果、第2次世界大戦で多くの日本兵が亡くなったインドネシアのプテロプティクス・エフルゲンス *Pteroptyx effulgens* のホタルツリーの実物大の映像を企画展会場入口に投影しました。また、蛍の浮世絵などの展示にも光量が必要なために、当館初の暗視野での企画展でしたが、どうしても会場内が予定よりも明るくなってしまいました。相反して、光る生きものの生体展示の発光を最高の状態でご覧いただくには、会場をより暗くしなくてはなりません。この状況を少しでも改善するために、移動壁やビニールシートによる遮光や電光板による説明などを実施しました。(写真1、2)



写真1 企画展入口ディスプレイとホタルツリー大型映像

しかし、安全面への配慮もあり、暗くする限界がありました。さらに、当館に

は飼育施設がないために、企画展期間中に生体を維持することは並大抵のことでありませんでした。それでも、多くの来場者の方からの「きれい」「美しい」などの感想を励みに朝から晩までの生体管理を続けることができました。



写真2 生体展示

★全国の展示支援

今回の企画展は、アメリカ自然史博物館の特別展「*Creatures of Light*」をモデルとして、その資料も展示する予定でした。しかし、この特別展のカナダへの巡回展があるために、大型模型等を借受けることができませんでした。また、東日本大震災被災資料のレスキューを同時進行で行いながらの企画展の準備は、思うようには進みませんでした。そんな状況下で、北は北海道大学総合博物館分室水産科学館から南は海洋博公園・沖縄美ら海水族館まで、多くの標本や画像を提供していただきました。また、日本財団の助成を受けて、アメリカ自然史博物館に匹敵する大型模型を作成することができました。

さらに、触れる標本として好評だったホタルイカ *Watasenia scintillans* のプラスチックを用いたイルミネーションも復興支援の一環として、兵庫県立香住高等学校と兵庫県立人と自然の博物館と盛岡ペットワールド専門学校とのコラボレーションにより作成していただ

きました。これは、宮澤賢治の銀河鉄道の夜の作品中に登場するホタルイカの群れをイメージしたものでした。(写真3)

紙面の都合上、掲載することができなかった多くの支援をいただきました協力機関に感謝申し上げます。



写真3 ホタルイカのプラスチックネーションとヒロビレイカ大型模型

★ヒトの集う博物館へ

企画展のオープニングの6月下旬にはこども☆ひかりキラキラ復興フェスティバルを実施して5061名の方にお出で頂き、大盛況のうちに終わることができました。九州国立博物館や小岩井まきば天文館をはじめとする全国や地元のミュージアムなどから11の体験コーナーを出展していただき、どのコーナーも沢山の子どもたちで溢れていました。(写真4)



写真4 こども☆ひかりキラキラ復興フェスティバル屋外コーナー

さらに、7月下旬にはさかなクン特別トークショーや光の実験室も実施しました。当館では通常実施されないイラストによる解説や実験によって、多くの子どもたちに光る生きものについて理解を深めてもらいました。

また、大人向け企画展関連事業として7月中旬にひかりフォーラムと自然観察会を同日開催しました。午前のフォーラムでは、日頃接することのない民間をはじめとする海洋性発光生物研究者と陸生発光生物研究者とのコミュニケーションの場を提供できました。午後には、自然観察会の場所である岩手県二戸市に移動して、折爪岳のヒメボタルフェスティバルとリンクすることにより、地域振興も図れたのではないかと思います。

8月には、「ホタル点滅の不思議ー地球の奇跡、復興への光ー」と題して、大場信義神奈川大学客員教授より、戦争とホタルの話などをしていただきました。また、東日本大震災からの復興へのエールもいただきました。

その他にも光るバッジづくりのたいけん教室やミュージアムシアターでの光る生きものの特集、発光性深海生物ペーパークラフト教室などの盛り沢山の関連事業で、「楽しい」「おもしろい」の声がこだましていました。

★喜びも悲しみもあった巡回展

8月下旬から9月上旬まで、岩手県沿岸被災地である宮古市の岩手県立水産科学館と久慈市のもぐらんぴあ・まちなか水族館へ本企画展展示物の一部を用いて巡回展を行いました。各施設によって短時間でアレンジする必要があり苦労しました。その甲斐があつてか、各施設の同時期の来館者が前年度の約3倍となり、各地域の振興に繋がったことを嬉しく思っております。また、巡回展後も展示物を各施設に貸し出し、東日本大震災被災地の復興支援ができました。(写真5)

しかし、巡回展ができなかった地域もありました。実は、陸前高田市にもお伺いする予定でしたが、生体展示のための

一定の暗さや室温、電源などを確保することが難しいためにやむなく断念しました。改めて、東日本大震災からの復興が遅れていることを痛感させられました。



写真5 宮古市巡回展入口（岩手県立水産科学館）

★苦労した常設展示への移設

企画展後、展示物が撤収されて、がっかりして帰る子どもたちの姿が見られました。そんな子どもたちに岩手県や三陸のホタルやエゾイソアイナメ*Physiculus maximowiczii*をはじめとする多くの光る生きものたちを紹介していこうということで、当館の常設展示への移設を行いました。

しかし、そのまますぐに常設展示へ移設することはできませんでした。巡回展の移動で展示物に少なからず傷みがあったからです。また、企画展の行われた特別展示室と展示環境の異なる常設展示室に合うような形に改造しなければなりませんでした。限られた時間の中で、10年はしっかりと保持でき移動もできる展示の制作が造形スタッフと始まりました。

まず、当館の常設展示室では初となるオワンクラゲ*Aequorea Victoria*の発光に関わる蛍光タンパク質GFP遺伝子を組み込んだメダカと蛍光サンゴの生体展示を移設しました。特に、蛍光メダカは基礎生物学研究所の協力で実現したもので、全国で一般に展示公開している博物館は当館を含めて2館しかありません。

次に、岩手のブナ林を再現した常設展示室のジオラマにツキヨタケ*Omphalotus guepiniformis*の発光ディスプレイ、自然史展示室に二戸市折爪岳産のヒメボタルをモデルにした革製拡大模型を移設しました。

その後、岩手の清流に見られるゲンジボタル*Luciola cruciata*や田園で多く見られるヘイケボタル*Luciola lateralis*、山間のヒメボタル*Hotaria parvula*の環境を再現したジオラマ発光装置と共に、雌雄で飛翔し発光するゲンジボタル拡大模型を天井から吊り下げました。

最後に、実物大のヒロビレイカ*Tanigiana danae*が発光しながら襲う数百匹のハダカイワシ*Diaphus watasei*の群れを再現しました。このハダカイワシの腹側にある発光器が、群れとしては数千個あるわけですが、どう発光させるかで試行錯誤をしました。(写真6)

今もエゾイソアイナメやマルアオメエゾ*Chlorophthalmus borealis*の標本や発光映像などの移設を行っています。当館に足をお運びいただき、常設展示もご覧いただければ幸いです。

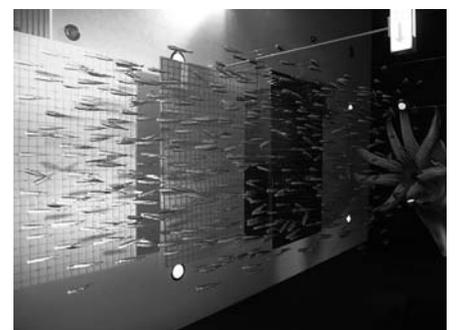


写真6 実物大ヒロビレイカに襲われるハダカイワシの群れの模型

このような展示を通して美しくも厳しい自然環境を持つ岩手の一面を知り、生きものの光に心を少しは癒していただけるとはではないでしょうか。

(本企画展担当 藤井千春)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション〈2014.6.1~2014.9.30〉

お知らせ

- 入館料改定 一般310円
消費税改定に伴い、一般の入館料を310円に改定しました。
- 夏休み臨時開館 8月4日(月)、8月11日(月)
夏休み期間中の8月4日(月)と8月11日(月)は臨時開館します。
- 資料整理のため休館 9月1日(月)～9月10日(水)
資料整理のため9月1日(月)から9月10日(水)まで休館します。
- 敬老の日 満65歳以上入館無料
9月15日(月・敬老の日)は満65歳以上の方は無料で入館できます。

展覧会

- 企画展 八戸立藩三百五十年記念 ふるさと岩手
八戸藩の礎となった母と子～二代藩主南部直政と生母霊松院～
平成26年6月28日(土)～8月17日(日) 特別展示室
八戸藩主家の起源と八戸藩の基礎をつくった二代藩主南部直政、生母霊松院の事績を紹介します。
- 展示解説会 14:30～15:30 特別展示室 要入館料
7月6日(日)、7月19日(土)、8月3日(日)
- 特別講演会
8月2日(土) 10:30～12:00 当日受付 講堂 聴講無料
「柳沢吉保と南部直政」 福留真紀氏 (長崎大学准教授)
- 県博日曜講座 各回とも13:30～15:00 当日受付 講堂 聴講無料
7月13日(日) 「二人の藩主・南部重信と南部直政」
兼平賢治氏 (東北大学大学院文学研究科助教)
- 7月27日(日) 「八戸城下の形成」
藤田俊雄氏 (八戸市立図書館長兼市史編纂室長)
- 8月10日(日) 「霊松院 (川口孝)と南部直政」
佐々木勝宏 (当館学芸員)

伝統芸能鑑賞会

- 川口神楽・きつね踊り 出演:川口神楽・きつね踊り保存会 (岩手町)
7月12日(土) ①11:00～11:30 ②13:30～14:30 講堂 当日受付 鑑賞無料
初代八戸藩主南部直房夫人である霊松院のふるさと岩手町川口に伝わる郷土芸能の演舞を鑑賞します。

観察会

- ◆第67回自然観察会 昆虫観察会 網張温泉自然観察の森
6月29日(日) 9:00～14:00 現地集合・解散 (雫石町)
ブナ林に生息する昆虫を観察します。
講師:千葉武勝氏 (元岩手県農業試験場研究員)
定員:20名程度 (小学生以上)
参加費:100円 (保険料)
※要事前申込み
- ◆第67回地質観察会 一戸町の根反川沿いの珪化木地帯を歩く
7月6日(日) 10:00～15:15 現地集合・解散 (一戸町)
特別天然記念物に指定されている「根反の大珪化木」をはじめ多数の珪化木を観察します。
講師:杉山了三氏 (岩手県立盛岡第三高等学校講師)
定員:20名程度 (小学校高学年以上)
参加費:100円 (保険料)
※要事前申込み
- ◆第68回自然観察会 シカに食べられる森
9月27日(土) 8:00～17:00 (釜石市)
増えたニホンジカが生態系に与えている影響を現地で観察します。
講師:鈴木まほろ (当館学芸員) ほか
定員:20名程度 (小学生以上)
参加費:バス代 (未定)
※要事前申込み

観察会の申込み方法

実施日の一か月前から往復はがきまたは電子メールで受け付けます。
詳細はお問い合わせください。

県博日曜講座

- 第2・第4日曜日 13:30～15:00 当日受付 聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
*は企画展関連講座です。
6月8日 「遺跡の土を洗ってみると...」
一微細遺物から考える古代- 丸山浩治 (当館学芸員)
6月22日 「カッパのはなし」 川向富貴子 (当館学芸員)
- *7月13日 「二人の藩主・南部重信と南部直政」
兼平賢治氏 (東北大学大学院文学研究科助教)
- *7月27日 「八戸城下の形成」
藤田俊雄氏 (八戸市立図書館長兼市史編纂室長)

- *8月10日 「霊松院 (川口孝)と南部直政」佐々木勝宏 (当館学芸員)
- 8月24日 「エクスカッション「奥州」～3コースで「奥州」を探る～」
中山 敏 (当館館長)
- 9月14日 「絵図にみる岩手山」 齋藤里香 (当館学芸員)
- 9月28日 「増えるニホンジカの脅威」 鈴木まほろ (当館学芸員)

博物館まつり

- 第6回岩手県立博物館まつり
9月23日(火・祝) 芝生広場ほか 小学生以下対象 参加無料
さまざまなコーナーに参加して、博物館をもっと好きになろう!

週末の催し

- ◆ミュージアムシアター
毎月第1土曜日 13:30～15:00 講堂 当日受付 視聴無料
童話や昔話、感動の物語を上映します。
6月7日 アニメシアター 幼児～小学生向け
「たまごにいちやん」「ねごさかな」シリーズ7作品
7月5日 アニメシアター 小学生～一般向け
「くずの葉ぎつね」「あんじゅとずしおう」「七タものかたり」
8月2日 アニメシアター 小学生～一般向け
「じごくのそうべえ」「さよならカバくん」「オバケちゃん」「幽霊屋敷」
(9月6日 お休み)
- ◆チャレンジ!はくぶつかん
毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付
チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!
6月 14日・15日・21日・22日 テーマ:足
7月 12日・13日・19日・20日・21日 テーマ:土
8月 9日・10日・11日・16日・17日 テーマ:八・八・はち
9月 13日・14日・15日・20日・21日 テーマ:空
- ◆たいけん教室～みんなでためそう～ (予約制)
毎週日曜日 13:00～14:30 幼児・小学生20名程度 参加無料
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間中(9:30～16:30、休館日を除く)先着順に受け付けます。
1度に3名まで予約可能です。予約状況はホームページでご確認ください。

6月	7月
1日 チャグチャグ馬コづくり	6日 きとうごとくいちろう先生の木の工作教室
8日 でんでんたいこ	13日 のびちみしゃくとり虫
15日 草花のそめもの	20日 ちぎり絵のうちわ
22日 化石のレプリカづくり	27日 ガラスの万華鏡
29日 まが玉アクセサリー	
8月	9月
3日 かけじくをつくろう	(7日 お休み)
10日 ちぎり絵のうちわ	14日 竹トンボ
17日 土版づくり	21日 偏光フィルターの万華鏡
24日 こはくの玉づくり	28日 スライムであそぼう
31日 恐竜ぬりえカード	

定時解説

- 平日～土曜日 13:30～14:30 / 日曜日 10:30～11:30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員がご質問や解説のご希望におこたえています。

利用のご案内

- 開館時間 9:30～16:30 (入館は16:00まで)
- 休館日 月曜日 (月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
※8月4日、8月11日は臨時開館
資料整理日 (9月1日～10日)
年末年始 (12月29日～1月3日)
- 入館料 一般310 (140)円・学生140 (70)円・高校生以下無料
()内は20名以上の団体割引料金
9月15日(月・敬老の日)は満65歳以上無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第141号 平成26年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831 / Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235 / Fax. (019)625-3595
------------------------------------	---